

大会名 Competition	第69回秋田県高校総体 男子決勝
NO, M-4	Year Month Day Time 2023 年 6 月 6 日 14 : 00
場所 Place	能代市総合体育館



秋田県高等学校体育連盟
バスケットボール専門部

チームA 能代科技 84 ○	<table border="1"> <tr><td>24 1st</td><td>15</td></tr> <tr><td>21 2nd</td><td>6</td></tr> <tr><td>21 3rd</td><td>10</td></tr> <tr><td>18 4th</td><td>25</td></tr> <tr><td>OT</td><td></td></tr> </table>	24 1st	15	21 2nd	6	21 3rd	10	18 4th	25	OT		チームB 秋田工 56 ●
24 1st	15											
21 2nd	6											
21 3rd	10											
18 4th	25											
OT												

Crew Chief
中道 凌平
Umpire 1
田村 高光
Umpire 2
遠田 亘
テーブルオフィシャル: Table officials
能代高校男子バスケットボール部

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	×	中野 珠斗	斗	23	5	4	0	2	4	×	最上 汎	CAP	14	4	1	0	2
5	×	関口 創介	介	10	0	5	0	4	5		鎌田 琉羽		-	-	-	-	-
6	×	大高 琉翔	翔	8	0	4	0	1	6	/	千田 健志朗		2	0	1	0	1
7	×	伊藤 賑一	一	25	3	7	2	3	7	×	谷内 真貴		0	0	0	0	2
8	/	佐藤 楓生	生	2	0	1	0	0	8	×	高橋 峻大		14	0	5	4	2
9	×	小田 崑斗	斗	14	2	3	2	1	9	×	佐藤 杏太		6	0	1	4	4
10	/	山本 倅也	也	0	0	0	0	1	10	×	二木 颯太		10	0	5	0	3
11	/	岸 真矢	矢	0	0	0	0	1	11		播磨 魁成		-	-	-	-	-
12		山本 威吹	吹	-	-	-	-	-	12		金 佑将		-	-	-	-	-
13		佐藤 悠斗	斗	-	-	-	-	-	13		相馬 悠人		-	-	-	-	-
14	/	見上 匠喜	喜	2	0	1	0	0	14		須田 爽		-	-	-	-	-
15		平川 晴喜	喜	-	-	-	-	-	15		工藤 拓真		-	-	-	-	-
16		草薙 理倫	倫	-	-	-	-	-	16	/	大角 洸碧		7	0	3	1	0
17		品田 越虎	虎	-	-	-	-	-	17	/	三戸 唯翔		3	1	0	0	0
18		宮田 蒼羽	羽	-	-	-	-	-	18		田子 琉斗		-	-	-	-	-
19		山崎 七星	星	-	-	-	-	-	19		桜庭 太一		-	-	-	-	-
20		安藤 璃琥	琥	-	-	-	-	-	20		田口 陸人		-	-	-	-	-
21		近藤 愛翔	翔	-	-	-	-	-	21		安部 汰一		-	-	-	-	-
コーチ		小松 元聡	聡						コーチ		小松 和幸						
コーチ		長谷川 聡	聡						コーチ		神坂 晴						
合計				84	10	25	4	13	合計				56	5	16	9	14

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P* イントシュート 2P:2P* イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

男子の決勝は昨年度の県新人大会と同じ、能代科学技術と秋田工の顔合わせとなった。試合は能代科技#4中野の3Pで始まる。対する秋田工も#4最上がすぐに3Pで返し、激しい試合展開を予感させる。秋田工は#8高橋がゲームをコントロールし、多彩なモーションオフェンスやセットプレーで攻撃するが、能代科技は激しいディナイディフェンスやスイッチディフェンスで対応し、得点を伸ばせない。一方の秋田工は能代科技の激しいドライブに対し、ペイントエリアの守りを厚くするが、能代科技#4中野、#7伊藤が素早いパス回しから3Pを決めて得点を重ねる。秋田工は能代科技のフィジカルの強さとディフェンスプレッシャーに苦しみ、#10二木がミドルシュートを決めて食らいつくも、終了間際に能代科技#7伊藤がドライブからのショットとバスケットカウントのフリースローを決め、24-15として1Qが終了。

2Qに入り、能代科技のディフェンスの勢いはさらに増し、開始から2度も秋田工業から24秒ターンオーバーを奪う。さらに能代科技は#4中野が立て続けに3Pを沈めて突き放す。秋田工はたまたまタイムアウトを取り、残り2分で2-3ゾーンにディフェンスを切り替える。しかし能代科技は落ち着いてオフェンスを展開し、#9小田崑の3Pや#8佐藤、#7伊藤の速攻からのドライブで得点を重ねる。その後、メンバーチェンジをしながらも激しいディフェンスを継続する能代科技の前に秋田工はオフェンスの決め手を欠き、45-21と能代科技がリードして前半が終了する。

第3Qに入り、秋田工#8高橋が連続でジャンプシュートを決める。この時間帯、前半に比べて能代科技の3P精度が落ち始めるが、#9小田崑のゴール下や#7伊藤のドライブからのバスケットカウントなどで得点を重ねる。残り5分となり能代科技はゾーンプレスにディフェンスを切り替え、突き放しを図る。秋田工はプレスディフェンスを突破するもののフィニッシュの精度を欠き、得点に結びつけることができない。能代科技は#9小田崑のドライブからのバスケットカウントや#7伊藤の3Pで得点を伸ばし、66-31とさらに点差をつけて3Qが終了する。

第4Q序盤、秋田工が反撃を見せる。#4最上の3Pや#16大角のゴール下などで得点を伸ばす。能代科技はゾーンプレスを継続し、セットプレーから#7伊藤が冷静にジャンプシュートを沈める。対する秋田工が#17三戸の3Pや#9佐藤のスティールからの得点で攻撃の勢いがついたところで、能代科技がこの試合初めてのタイムアウト。残り5分となり、秋田工#4最上が再び3Pを沈めたところで能代科技はスタートのメンバーに戻して態勢を立て直す。秋田工もオールコートでのディフェンスでプレッシャーをかけるが、能代科技は#7伊藤や#5関口が冷静にゴールを決める。残り2分を切り、#9小田崑の3Pやピックアップから#5関口がゴール下を決めるなどして突き放し、84-56で試合が終了。

終盤の秋田工の反撃に冷静に対処した能代科技が、新型コロナウイルスでの大会中止後、3連覇を果たし、北海道インターハイの出場を決めた。